

「半額」

ある領主から「純金二枚を買いたいから持参するように」といった書面が届いた。それを受け取った商人は早速領主の住む役所におもむいた。

領主は「値段はいくらかね」

「ただ今の時価はこれですが、領主様にお買い上げ頂くのですから半額頂ければ結構です」

すると領主は側近のものに「では一枚を返してやれ」といった。一枚を受け取ったかれは、あとの一枚ぶんの半額を受け取るために待っていると、「代金はもう払ったぞ、早く帰れよ」「いいえ、まだ頂いていません」急に腹を立てた領主は言った

「けしからん奴だ、お前は半額でよいと言ったではないか、だから二枚分の半額の一枚分を返してやったのだ。お前は何も損はしていない、それなのに、この上まだ代金を請求するとはけしからん。こいつを叩き出せ」



「したたかな尼さん」

その年は特に寒さが厳しかった。真珠商人の船が座礁してかなりの日経っていてこのままだと飢え死にするばかりの状態だった。そこへ尼さんを乗せた一艘の舟が近づいてきた。舟には米をはじめたくさんの食料が積まれていた。真珠商人は早速掛け合ってみた、「真珠を安くしますから米と交換して頂けませんか」「いやじゃ、いやじゃ」「真珠一升と米一斗と交換ではどうでしょうか」「駄目、だめ」「それなら、真珠一斗と米一斗では」「駄目じゃっ」「それでは、どうしたら交換してくれるんですか」「どうしてもいやじゃ、お前さん達がみな飢えて死んでしまえば真珠は全部私のものになる」

